

# 平成十六年史跡探訪レポート

## 市内―浜脇界限

平成十六年八月二十二日（日）、本年度市内史跡探訪会が行われた。今回は町起こしの動きを現地で見聞しようと浜脇地区を対象にした。参加者は38名。

当日の見学説明者は別府史談会会員で「浜脇温泉・セピア色散歩」のウォークガイドをされている安藤康男さん。午前九時からまずはJR東別府駅を見学した。

東別府駅は明治四十四年（一九一一）十一月に開業、当時は「浜脇停車場」と称した。昭和九年（一九三四）九月から東別府駅と改称された。平成十六年（二〇〇四）三月には、以前の面影を残したまま、リニューアルされた。

次に現在浜脇中学校となっている大友浜脇館跡（浜脇東公園跡）、崇福寺（そうふくじ）（上ん寺、禅寺臨済宗妙心寺派）、長覚寺（下ん寺、浄土真宗大谷派）を見学後、丸井戸、榎屋ギャラリー（糸永家）、HOPE賞の家（糸永、財前家）、アーケードの阿部京商店、旧浜脇郵便局、丸清水、角清水跡、ベンガラの荒金久邸、平尾邸、修福寺（おっほくじょう）（黄檗宗）等を見学した。その



八幡朝見神社 別府市朝見

後、浜脇小学校と南小学校が合併して、平成十六年二月に落成した南小学校（旧浜脇小学校跡地）を見学、芝尾 宏校長の説明を受けた。南小学校はオープンルームとワークスペース方式を採り入れたユニークな新校舎である。

南小学校を見学後、八幡朝見神社を参拝し、神日出男宮司の説明を受け、宝物館等を見学、十三時頃、現地解散した。

### 市外―宇佐・高田の神社と寺院

十一月七日（日曜）、絶好の秋日和のもと、県立歴史博物館渡辺文雄副館長のご指導を仰ぎ、歴史博物館―宇佐神宮―大善寺―大楽寺―高田市昭和の町―長安寺―青宇田の画像石を巡る市外歴史探訪会が実施された。

歴史博物館では、折から開催中の特別展「南無阿弥陀仏―浄土への道―」を見学、東西本願寺はじめ県内外から出展された阿弥陀像、聖人絵、肖像、筆墨など88件の宝物を介して、深奥な阿弥陀信仰の世界に接する一時を過ごした。

次いで宇佐八幡宮では、宝物館で弥勒寺の遺品などを観覧の後、本殿、呉橋、弥勒寺跡などを散策、終わって寄藻川堤防沿いの道を曹洞宗大善寺へと移動、国重要文化財「木造葉

師如来座像」（315ㄱ）の威容に目を見張り、終わって田圃道を徒歩で大楽寺へとたどった。ここでは秘仏「木造弥勒菩薩座像」・脇侍の日光・月光両菩薩、四天王像を拝観、ユーモア溢れる住職の特別の計らいで、身を隔壁ガラスの内側に置き、清楚な諸仏を間近に拝顔する幸運にも恵まれた。境内に停む等身大の地藏・観音などの多くの諸仏もまた気品があり、会員の拝観する姿も散見された。

昼食は、高田市中心公園で取り、島理事のご配慮で近藤正治氏が昭和の町を案内、手土産をどっさり、バスで一路吉弘氏ゆかりの屋山（城）山麓の天台宗長安寺へ。

カヤの一木造りで、若さ弾む少年を連想させる太郎天（162ㄱ）を中心に、脇侍の制陀迦童子、衿羯羅童子が目前に並び、参加者全員が始めて一堂に会し、すっきりとした眼差しで、笑顔絶やさず語る渡辺文雄先生の解説に耳を傾ける。

最後に青宇田の画像石を見学。板状石に地獄極楽のありようを描いた線刻の描写は、絵巻物の地獄草紙・餓鬼草紙の筆致を連想させる。新たな発見に一同感嘆の声しきりであった。渡辺先生に手を振り、一路別府花時計前広場へ。晴天、心地よい疲労感、満ち足りた探訪の一日であった。（研修部）